



プログラムの概要

●プログラムの目標

地域ゆかりの俳句やまち歩きを通じて、その土地の歴史や時代の移り変わりについて理解を深めると共に、地域の魅力を再発見することにより、身近な地域に対する愛着や誇りを育む。また、自分達も俳句を詠み、現代版の「散策集」を作り上げる中で、地域文化の継承と発展に主体的に関わる姿勢を身に付ける。

●プログラムの背景

正岡子規をはじめ先人が築いてきた俳句文化は、松山市民の誇りであり、松山市のかけがえのない文化的資産である。そうした地域文化を受身的な立場で学習するだけでなく、子ども達自身が文化的な所産を築く営みに、自らも「創り出す」立場で、参加することにより、松山市において育まれてきた俳句文化が時代を超えて続いていくと共に、地域の文化的発展にも寄与するのではないかと考えられる。

●プログラムの進め方

本プログラムでは、地域を巡る「まち歩き」や「俳句づくり」という体験の機会と、そこで子ども達が気付いたことや感じたことを話し合う「振り返り」の機会を交互に繰り返し設定している。

まず、正岡子規「散策集」の俳句を学ぶと共に、まち歩きを通じて子規が散策した道を辿りながら、「昔と違うところ」「昔と同じところ」「まちの中で発見したこと」「自分が感じたこと」という視点から、子規の俳句から読み取れる当時のまちの様子と現在のまちの様子を比較し、まちの歴史や変化を感じ取る。

まち歩きの振り返りを行った後、再度まち歩きを行い、そこで自分達が感じたことを俳句に詠む。それらを自分達ならではの「散策集」(以下、『こども散策集』)としてまとめると共に、句会を開いて友達と詠んだ俳句を相互に鑑賞する機会を設ける。

さらに、本プログラムの地区展開として、校区近辺に場所を移し、「自分達が好きな場所」や「皆に伝えたい地区の魅力」等の観点から、まち歩きや俳句づくりに取り組み、その地区ならではの「散策集」(以下、『地区散策集』)を作成する*。

最後に、自分達が作成した「散策集」を地域の方々に紹介し、自分達が発見した地域の魅力や情報を伝える。

*ただし、プログラムの地区展開は、カリキュラムの時間制約が限られている場合や、小学校の校区が既に「散策集」のルートと重なっている場合は省略する。